

日本・オランダ交流400周年事業



# Puddles

ARTIST-INITIATIVE LINKS IN 1999

## 参加作家

日本: 天野豊久、有地左右一+笹岡敬、伊藤洋介、出口道吉  
オランダ: リザベト・ビック+ヨス・ファンデルボル、ドレイ・ワーペナー  
アンケ・シェイファー  
アメリカ: シドニー・ドラム

大気のエネルギーが、ある場の水蒸気の密度を高め、驟雨を発生させるように、ある出会い、ある会話が運動を発生させ、活動の場が形成される。大気の活動のように、それは国を越境する。不可避免的にできる都市の狭間の水溜まりのように、硬直した芸術のシステムの狭間に組織される、"Puddle"/水溜まり。企画は断続的な驟雨のごとく、あるいは出来ては消える水溜まりのごとく、そのつど新しく組織され、そのつど解消する。展示会はその痕跡である。しかしそれは、地下で共通の水脈を形成する。それこそが狙いでもある。地下水は、後に大海に流れいで、新たなエネルギーとして循環するであろう。今回、日本・オランダ・アメリカのアーティスト主体の活動組織が、グローバルな芸術状況を作りだすために連動を開始する。

## ギャラリー・サージ

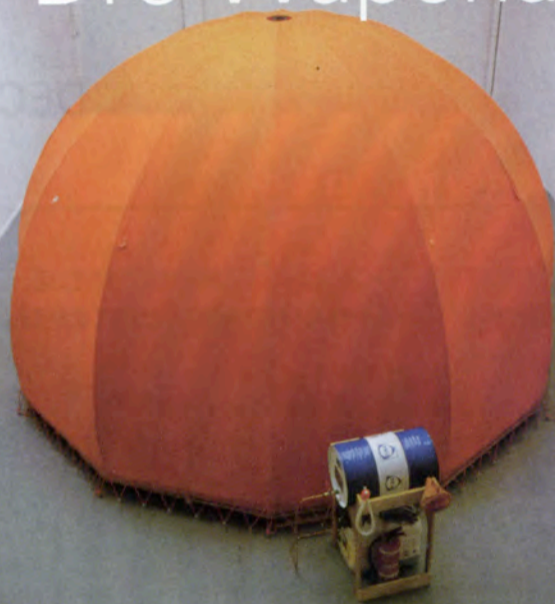
11月29日~12月11日 現地制作期間  
12月13日~12月25日 ドレイ・ワーペナー展  
オープニングレセプション/12月13日(月)午後6時より  
(日祝休み)



Dré Wapenaar/ドレイ・ワーペナー

1994年からデュエンデの活動に関わる。ドレイ・ワーペナーの作品「テント/スタンド」は、そこで人々が出会う際の行動様式のスタディとしてつくられる。これらは社会で起きうる複数の出会いや衝突の意味性を拡大し、建築形態へと変換したものを、再び社会へ還元しようとしている。したがって、デザイン、建築、彫刻のすべての要素、あるいは、人から人へ、個から多へ、またその逆等の、日常的な人々の出会いによる影響といった必然性すべてを用いた状況が用意されている。

## Dré Wapenaar



## Liesbeth Bik & Jos van der Pol

## ギャラリー・サージ

11月1日~11月14日 現地制作期間  
11月15日~11月27日 リザベト・ビック+ヨス・ファンデルボル展  
オープニングレセプション/11月15日(月)午後6時より  
(日祝休み)

11月20日 シンポジウム\*3

Liesbeth Bik+Jos vd Poe/リザベト・ビック+ヨス・ファンデルボル

リザベト・ビック  
1959年 オランダ、ハーレム生まれ  
1998年 アムステルダム自由大学卒業  
ヨス・ファンデルボル  
1961年 オランダ、アーネム生まれ  
1987年 ロッテルダム造形美術アカデミー卒業



1984年に10人のアーティストとともにデュエンデを設立し、ビックは代表を務め、ヨスも活動組織やゲスト・スタジオの運営に積極的にかかわっている。リザベト・ビックとヨス・ファンデルボルは、ディスカッション、アイデア、経験の交換から始まる「変化」の生成を目的としている。彼等の作品は、「共通の記憶」に触れることで、対話の必然性を引き出し、議論を更新し、他のアーティストとともにその理解を発展させながら共通言語を導き出すとするもので、コラボレーションの概念の拡大による、共通認識に相応しいメディアの展開を進めている。

## GALLERY SURGE

## ギャラリー・サージ

8月23日~9月4日 シドニー・ドラム、伊藤洋介展  
オープニングレセプション/8月23日(月)午後6時より  
(日祝休み)

8月28日 シンポジウム\*1

伊藤洋介/Yosuke ITO

1983年 浜松市生まれ  
1987年 東京造形大学卒業  
おもに、90年代からギャラリー・サージを中心に発表活動を展開する。1998年、ニューヨークの55マーサーギャラリーで個展を行い、その後、同ギャラリーのメンバーとなる。

伊藤洋介は、建築物の写真やパースラインが転写された紙や布を、折り曲げて立体として立上げ、空間に集合・配置する。これらは、見るごとく空間の関係を比喩的に形象化したものであり、美術というジャンルの起源に遡行し、その発生時における身体性を伴う記憶/記録の多様性を失うことなく作品に昇華させることをテーマとしている。



問い合わせ: ICAEE 国際現代美術交流展実行委員会  
〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-7-13 渡邊ビル1F ギャラリー・サージ内  
TEL: 03-3861-2581 FAX: 03-3861-2582  
URL: <http://www.cnet-tc.ne.jp/t/toy/default.html>



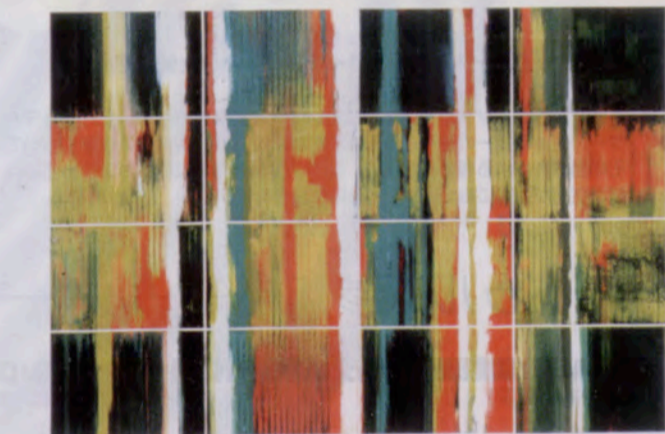
## CAS

10月6日~10月21日 現地制作期間  
10月22日~11月6日 アンケ・シェイファー展  
オープニングレセプション/10月22日(金)午後6時より  
(日祝休み)

Anke Schäfer/アンケ・シェイファー  
1962年 ドイツ、クレフェルト生まれ  
1994年 ヤン・ファン・アイク・アカデミー大学院卒  
1998年 メンバーのジャンヌ・ファン・ヒースリックによってデュエンデを紹介される。

アンケ・シェイファーは、ビデオ、パフォーマンス、ミクストメディアという手段を用い、様々な映像メディアの間にあるギャップをめぐって、そこに何が介在しているのかを探究している。人間が抱く共感あるいは拒否感に注目し、自らが演じるライブムービースターのジェーン・フロンドや、「キャンディTV」(料理番組)に出演する砂糖まぶしの達人、アンナ・キーなる人物を考え出した。

## Anke Schäfer



## Sydney Drum



Sydney Drum/シドニー・ドラム  
カナダ、カルガリー生まれ  
1976年 ヨーク大学大学院卒業  
1984年からニューヨークに拠点を移して制作活動を展開、個展、グループ展を数多く行う。  
1993年、55マーサーギャラリー/ニューヨークで個展を行ない、1996年、同ギャラリーのメンバーとなる。

シドニー・ドラムは、具象画と抽象画のパネルを複数組み合わせ、具象の歴史的な現現性や、抽象のリアリティーを共有させた作品を発表している。具象パネルのモチーフは、風景そのものよりも人間の記憶にアプローチし、抽象パネルは、色彩そのものを探る場として、相互補完的な意味作用を形成している。

## CAS

9月6日~9月18日 シドニー・ドラム、伊藤洋介展  
オープニングレセプション/9月6日(金)午後6時より  
(日祝休み)

9月15日 シンポジウム\*2

# CAS

Contemporary Art and Spirits



ARTIST-INITIATIVE LINKS IN 1999

- Gallery Surge /Tokyo
CAS /Osaka
Duende /Rotterdam
55 Mercer /New York

歴史において、われわれは、社会における既成のシステムの制度疲労や、その価値基準を見直すような動きを幾度か見ている。芸術においても、ここ数年アーティストが自主的に発表・発言の場をつくり、その活動の総体が作品であるという考え方が起きている。既成のシステムに対し問いを投げかけているこれらの動向を、欧米では、アーティスト・イニシアティブ、アーティスト・コーポレティヴと呼び、トータルな活動に根差した芸術のありかたを社会に認知させることで、新たなムーブメントを生みだしている。この観点に立ち、今回各国のアーティスト主体の組織、ICAEE/国際現代美術交流展実行委員会(日本)、CAS(日本)、デュエンデ(オランダ)、55マーサー(アメリカ)が相互に作家の交流を図る。

滞在制作と作品発表はもとより、シンポジウム、レクチャー等を通じ、背景の異なる活動の紹介や意見の交換を行い、そこから現代芸術の新たな可能性を模索し、普遍的な文化土壌の形成を目指そうとするものである。また、アーティストにおいても各国での滞在制作(アーティスト・イン・レジデンス)の実践を通じ、より広い視野を養成する好機となるであろう。

これは、日本では初めてともいえる試みであり、現況に対して新たな視点を獲得する可能性を秘めている。さらに、この試みは次年度以降も継続され、ネットワークの拡充によるグローバル化が図られてゆく。なお、日本とオランダの交流については、日本・オランダ交流40周年事業の一環として実施される。

ICAEE 国際現代美術交流展実行委員会

SCHEDULE 8月~12月

Calendar grid showing events for August (AUG), September (SEP), October (OCT), November (NOV), and December (DEC). Events include Gallery Surge, CAS, Duende, and 55 Mercer activities.

ARTIST-INITIATIVE LINKS IN 1999

シンポジウムの概要

欧米ではこれまでの美術館や商業ギャラリーと異なる立場で、アーティストが自主運営する非営利の文化・芸術活動組織が広がりを見せている。日本でもいくつかの組織が活動しており、アート・シーンのなかで、その役割が期待されている。このシンポジウムは、「アーティスト・イニシアティブ・リンクス1999/パドウルズ」の一環として実施され、アーティスト・イニシアティブの活動とは何か、各組織の活動報告や参加アーティストのレジデンス体験にもついて紹介する。加えて、この活動が今後、芸術や社会に及ぼすであろう、新たな胎動や可能性、あるいは課題点を様々な角度から検証する。

シンポジウム1

日時: 1999年8月28日(土曜日) 16:00~18:00
会場: ドトールコーヒーショップ岩本町2丁目店(定員50人)
参加費: 500円 コーヒー付き
主催: ICAEE/国際現代美術交流展実行委員会

パネラー: シドニー・ドラム(参加アーティスト/55マーサー)
伊藤洋介(参加アーティスト/55マーサー)
浜田剛爾(アーティスト)、若林幹夫(社会学)
酒井信一(ICAEE代表)、司会/天野一夫(美術館学芸員)

テーマ: 「アーティスト・コーポレティヴと都市形成」

ニューヨーク・ソーホーの発展において先駆的な役割を果たした、55マーサー・ギャラリーの活動と、日本での国際交流やレジデンス活動について、その当事者による報告をもとに、芸術活動が都市に及ぼす影響、あるいは都市空間が芸術にもたらすものとは何かを考察する。

シンポジウム2

日時: 1999年9月15日(祝日) 14:00~16:00
会場: 大阪府立文化情報センター 多目的ホール(定員140人)
主催: CAS /後援: 大阪府立文化情報センター
助成: ドキュメント2000プロジェクト
参加費: 1,000円

パネラー: 伊藤洋介(参加アーティスト/55マーサー)
川端嘉人(Clean Brothers)、樋口よう子(モダンde平野)
笹岡敬(参加アーティスト/CAS代表) ほか

テーマ: 「ノン・プロフィット活動の可能性」

大阪では、街の中にアートを持ち込むモダンde平野、ビルの清掃を行うことを条件に若手アーティストたちに共同アトリエとショーケースを与えるClean Brothers、ボランティアによる開かれた運営を行うCASなどユニークな活動が生まれている。55マーサー/ニューヨークの活動を例証しつつ、これらの非営利活動の社会的役割について検証する。

シンポジウム3

日時: 1999年11月20日(土曜日) 16:00~18:00
会場: ドトールコーヒーショップ岩本町2丁目(定員50人)
参加費: 500円 コーヒー付き
主催: ICAEE/国際現代美術交流展実行委員会

パネラー: リザベト・ピック(デュエンデ代表)、浜田剛爾(アーティスト)
ヨス・ヴァンデポル(参加アーティスト/デュエンデ)
天野豊久(参加アーティスト)、酒井信一(ICAEE代表)
中瀬康示(アーティスト/フィールドワーク・イン藤野代表)
司会/堀元彰(神奈川県立近代美術館学芸員)

テーマ: 「アーティスト・イニシアティブが芸術と社会にもたらすもの」

総合的なアーティスト・イニシアティブの活動をオランダで展開するデュエンデの紹介と、今回のシンポジウムに参画したアーティストの活動やレジデンス体験をもとに、その意義と可能性について語り合う。その上で、今後の「パドウルズ」の活動の展望を探る。

パドウルズ参加組織

ICAEE/国際現代美術交流展実行委員会 (日本、東京)

ICAEEは、91年から活動を開始し、先駆的で実験的な分野を領域として、海外の組織との共同企画による交流展やツアー公演などを数多く手掛けている。なかでも、都心の廃校を舞台とした、91年の「日本・ベルギー現代美術交流展」、96年の「日本・オランダ現代美術交流展」は、アーティストの滞在による現地制作や交流などを実践し、創作活動と展覧会の形成とを同時進行的に実現したきわめて冒険的で実験的な試みと言える。これは、それまで美術館や画廊などに限られていた芸術の形式・内容を、社会に向けて展開したものであり、今日のアーティスト・レジデンスの先駆として、芸術の社会理解を推進する文化事業の好例となった。現在ICAEEは、アーティスト、学芸員、批評家34名で構成されている。個々の実施事業は、その度毎に、企画立ち上げから実施までを参加アーティスト、スタッフ、ボランティアが一体となって行うことを原則としている。

CAS/Contemporary Art and Spirits (日本、大阪)

CASは、現代芸術の健全なコミュニケーションの実現を願う数名のアーティスト(CAS実行委員)らが、1998年に設立した非営利の活動組織である。実験的な芸術活動をサポートし、その社会的役割を推進する活動を行っている。都心のオフィス街にあり、1ヶ月ごとのゲスト・アーティストによる展覧会は、実行委員とボランティア・スタッフが協力してその維持管理にあたっている。ゲスト・アーティストの選出は、実行委員によって指名されたキュレーターが担うシステムで、活動資金も実行委員・鑑賞者・キュレーターなどのカンパによって賄われている。また、開設されたホームページでは、アーティストの紹介、ボランティア同士の情報交換や運営に関する議論が全国規模で展開されている。他にも、月1回程度のレクチャーやシンポジウムが開かれ、一般を交えた交流が盛んに行われている。

Duende/デュエンデ (オランダ、ロッテルダム)

デュエンデは、廃校をスタジオとする10人のアーティストらが1984年に設立した、アーティスト・イニシアティブの組織である。85年からゲスト・スタジオを運営し、内外のアーティストの活動をサポートし、94年に現在の場所に移転した。センター・オブ・ビジュアルアーツ(CBK)にスタジオを提供し、モンドリアン基金、ロッテルダム・アーツ・カウンシル、CBK等の財団の支援をもとに、アーティスト主体の理念を社会展開する活動を進めている。現在デュエンデは、スタジオの維持管理と展覧会、プレゼンテーション活動を行う2つのグループから成り、美術家、建築家、デザイナー、映像作家等のスタジオ・スペースと、展示、交流活動等のゲストスタジオを運営している。また、映画を専門に扱うスタジオ・エン、美術と映画の領域をめぐるワークショップ、シンポジウムも組織している。

55 Mercer Gallery/55マーサー・ギャラリー (アメリカ、ニューヨーク)

55マーサーは、アーティスト・コーポレーション・ギャラリー(アーティストによる自主管理、運営)として1969年に設立された。60年代末のニューヨークでは、アーティストがミッドタウンのコマーシャル・ギャラリーによる搾取に対抗して、自主的に、ソーホー等のロフトに発表の場を作り出す動きが広がった。55マーサーは、その先駆的な組織である。20人余りの会員によって運営され、ミーティングをもとに、年度ごとの方針や新メンバー等が決定されている。恒常的には、メンバーの個展が3週間単位で催され、他にも、ゲスト・キュレーターやアーティストの展覧会が開催されている。メンバーの会費による活動資金と、時流に左右されない柔軟な運営が組織の多様性を保ち、変動の激しいニューヨークにおいて、25年あまりの歩みを残している。

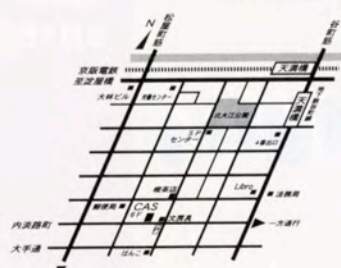
GALLERY SURGE

101-0032 東京都千代田区岩本町 2-7-13 渡辺ビル1F
TEL:03-3861-2581 FAX:03-3861-2582
URL=http://www.catnet.ne.jp/surge/

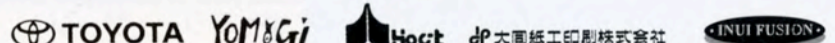


CAS Contemporary Art and Spirits

540-0038 大阪府中央区内淡路町 2-1-7 都立創内淡路602
TEL:03-3861-2581 FAX:03-3861-2582



主催: ICAEE/国際現代美術交流展実行委員会
後援: 駐日オランダ大使館、駐日アメリカ大使館、日蘭学会、朝日新聞社
協賛: トヨタ自動車株式会社、有限会社YOMOGI、有限会社北斗開発、大同紙工印刷株式会社、イヌイフュージョンクラフトネットワーク株式会社



助成: 国際交流基金 野村国際文化財団
協力: ササベ印刷株式会社 三菱電機 MITSUBISHI
企画制作: W3/ダブルキューブ・プロジェクト
参加画廊: ガラリー・サージ(東京)、CAS(大阪)、デュエンデ(ロッテルダム)、55マーサー(ニューヨーク)
開催場所: 東京展: ガラリー・サージ、大阪展: CAS、オランダ展: デュエンデ
問い合わせ: ICAEE 国際現代美術交流展実行委員会